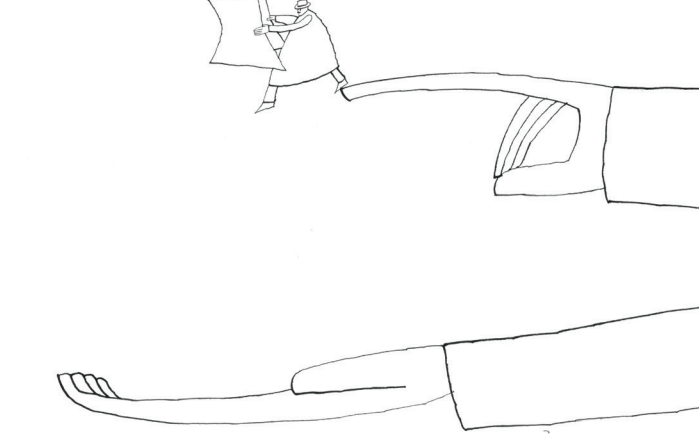


No.	作品名	制作年	技法／材質
293	ひとり	1987	水彩
294	道	1980	水彩
295	上昇	2004	水彩
296	対話	1975	水彩
297	秘密	1999	ブロンズ

LIFE of FOLON

1934年	3月1日、ベルギーの首都、ブリュッセルのユックル地区に3人兄弟の長男として生まれる。父アンドレは印刷業に従事していた。
1940-45年	第二次世界大戦中、一家はブラバン・ワロン州のゲンヴァル湖近くの村で過ごす。奇しくも現在フォロン財団があるラ・ユルプのソルヴェイ公園も近くにあり、父親に連れられて訪れたフォロンは、当時私有地で中に入ることが叶わなかったその場所に憧れを抱いたという。
1950年	勉強よりも絵を描くことを好み、ブリュッセルにあるサン＝リュック学校の建築科に進学。その後、別の学校で工業デザインも学ぶが、学校の授業には興味が持てなかった。
1953年	家族とたびたび保養に訪れていたベルギーの海辺の街クノックで、偶然、マグリットの壁画《魅せられた領域》を見て、絵画の可能性に目覚める。(この壁画は現在もクノックのカジノ内に展示されている)
1955年	フランスヘヒッチハイクの旅に出る。パリ近郊の街ブージュヴァルに身を落ち着け、5年間ドロ－イングに専念しながらベルギーとフランスの雑誌に挿絵を描き、なんとか生計を立てる。
1960年	ドロ－イングをニューヨークの雑誌社に送ったところ、『エスカイア』『ザ・ニューヨーカー』『タイム』などに掲載され、注目を集めはじめる。
1961年	フランス人アーティストのコレット・ポルタルと結婚。彼女の影響で色彩への関心が広がる。モーリス・ピアラ監督による短編映画「愛は存在する」のためのポスターを手がけ、ポスター作家としてのデビューも飾る。(以後、600点以上ものポスターを制作)
1963年	長男フランソワが生まれる。
1964年	初の著書『線の精神』が出版される。
1965年	彫刻家のセザールが所有するパリ市内の家に転居。 徐々に白い紙に黒インクで描くことをやめ、カラーインクを用いはじめる。 友人で写真家のジャンルー・シーフに会うためはじめてアメリカを訪れる。シーフの紹介でミルトン・グレイザーやポール・デイヴィスらのグラフィックデザイナーたちと知り合い、その後長きにわたり親交を結ぶ。多大な影響を受けていたイラストレーター、ソール・スタインバーグに会い、パウル・クレーについて学ぶよう勧められる。 イタリアのタイプライターメーカー、オリベッティ社のアーティストック・ディレクターを務める作家のジョルジョ・ソアヴィを介し、この頃から同社の広告デザインを長く手がけるようになる。ソアヴィはフォロンにとっての重要なビジネスパートナーであるとともに、よき理解者、友人でもあった。
1967年	オリベッティ社のタイプライター「Lettera 32」のポスターが大成功をおさめる。このポスターは日本でも掲示され、フォロンの名前を広めることとなった。 シルクスクリーン版画の刷り師ジャック・マルケと出会い、シルクスクリーンに取り組みはじめる。
1968年	長女カトリーヌが生まれる。 パリ近郊の小さな農村ビュルシーの古い農家に家族で移り住む。家の窓からは見渡す限りの平原の先に地平線が広がる「息を呑むほど素晴らしい眺め」が得られ、フォロンはここを終生のアトリエとした。 第14回ミラノ・トリエンナーレのフランス館のための壁画を制作。 パリのギャルリ・ド・フランスでドロ－イングの個展を開催。
1969年	ニューヨークのルフェブル・ギャラリーにて、アメリカで初の個展を開催。
1970年	初来日を果たし、東京にて個展を開催。大阪万博に出品。京都や倉敷も訪れ、日本の風景、文化や習慣に心を打たれる。日本から友人宛に旅の印象を描きとめた手紙(メールアート)を送る。 第35回ヴェネツィア・ビエンナーレにベルギー代表として参加。 ミラノのガレリア・イル・ミリオーネにてイタリアで初の個展を開催(画家で画廊創設者のジーノ・ギリンゲッリはフォロンが敬愛する画家ジョルジョ・モランディの画商であった)。
	ジーノの娘、パオラ・ギリンゲッリと出会う(2001年に結婚)。



1971年	長女カトリーヌが亡くなる。 以前から興味のあった水彩に打ち込むようになる。その光と透明感、詩情豊かな表現をフォロンは生涯、愛し続けた。
1972年	パリ装飾美術館で個展が開催され、ベルギーとイタリアに巡回。その後も世界各国の美術館で多くの個展が開催されるようになる。
1973年	ベルギー王立美術館に水彩画2点が収蔵される。 第12回サンパウロ・ビエンナーレにベルギー選出画家として参加し、グランプリを受賞。 フランツ・カフカ著『変身』(オリベッティ社の顧客贈呈用につき非売品)の挿絵を制作。
1974年	水彩画集「木は死んだ」が出版される。
1975年	ブリュッセルの地下鉄モンゴメリー駅に壁画《魔法の都市》を制作。
1976年	ロンドンのウォータールー駅の壁画を制作。 フランスの公共放送チャンネル「アンテーン2」のはじめと終わりに流れるアニメーション(本展にて一部を上映中)を制作。1983年まで毎日放送され、人々の生活に寄り添うこととなった。
1978年	ギヨーム・アポリネール著「ルーへの手紙」、レイ・ブラッドベリ著『火星年代記』の挿絵を制作。その後も多くの作家の著作に挿絵を提供する。
1981年	フランク・マルタン作「魔法の酒」やジャコモ・ブッチーニ作「ジャンニスキッキ」など、演劇やオペラの舞台美術デザインを依頼される。
1983年	ドロ－イングによる短い映画を制作し、アメリカ各地で上映。
1985年	ミルトン・グレイザーと一緒に即興的イメージによる「会話」を制作、刊行。 ビュルシーの自宅アトリエはそのままに、モノコにも海に面したアトリエを構える。作品に水平線がたびたび描かれるようになる。
1987年	この頃から廃材の木などを使ったオブジェを制作するようになる。 日本(東京、大阪、青森、神奈川、愛知、神戸)で回顧展を開催。
1988年	ヴィチエンツァ美術館(イタリア)にてポスター展開催。同美術館に100点のポスターを寄贈。
1989年	アムネスティ・インターナショナルの依頼で「世界人権宣言」の挿絵を制作。
1990年	フランス革命200周年記念のロゴとポスターをデザインする。 メトロポリタン美術館(ニューヨーク)で回顧展が開催される。この頃から彫刻制作に関心を持ちはじめ、友人の彫刻家セザールや鋳造師のロマン・バリエから、ブロンズ彫刻の制作を勧められる。
1992年	ロマン・バリエの手でフォロン最初のブロンズ彫刻が鋳造される。 ガラス職人との協働によるステンドグラスの実物大下絵を制作。それらのステンドグラスはフランスのモン＝タジェルとビュルシー(1997年)、ベルギーのワア(2004年)などの礼拝堂を飾ることとなった。
1995年	ブリュッセルのプチ・サブロン広場で初の彫刻展を開催。
1997年	日本(静岡、東京、京都ほか)で回顧展を開催。
2000年	干潮時に姿を現し満潮時には水没するブロンズ像《偉大な彫刻家、海》を、クノックの海辺に設置。
2002年	ベルギー、ラ・ユルプのソルヴェイ公園内の古い農場にフォロン財団を設立。自ら内部をデザインした美術館を併設し、現在も一般に公開されている。 陶芸や熱気球をデザインする。
2003年	フォロン自ら買い取り、「Over the Rainbow(虹の彼方に)」と名付けていた1930年代製のボートの改修に乗り出す。
2005年	ユニセフ親善大使に任命される。 フランスからレジオン・ドヌール勲章を授けられる。
2022年	最後の回顧展がフィレンツェのヴェッキオ宮殿とベルヴェデーレ城塞で開催される。 「Over the Rainbow」での航海を楽しむ日々を送る。 10月20日、71歳で世を去る。
	白沙村莊 橋本閑雪記念館(京都)にて、フォロンの彫刻と写真家ティエリ・ルノーの写真の展覧会が開催される。

出品リスト



No.	作品名	制作年	技法／材質
	プロローグ	旅のはじまり	
001	二重の視覚(千里眼)	n.d.	金属に塗装、シルクスクリーン
002	無題	n.d.	ミクストメディア
003	仮面	2001	油彩／キャンヴァス地
004	無題	n.d.	墨、水彩
007	無題	n.d.	墨、鉛筆
008	無題	n.d.	墨
009	無題	n.d.	墨
011	無題	n.d.	墨、グラフィット
014	無題	n.d.	墨、グラフィット
016	無題	n.d.	墨、グラフィット
018	無題	n.d.	墨
019	1番目の考え	1997	ブロンズ
021	無題	1963	墨
023	無題	1963	墨
024	われ思う。さりとて何を？	n.d.	墨、カラーインク
025	無題	1966	墨
026	無題	n.d.	墨
029	無題	n.d.	墨
030	無題	n.d.	墨
032	幸せなブジューム	n.d.	墨、水彩
034	無題	n.d.	墨
037	無題	n.d.	シルクスクリーン、コラージュ / アルミニウム
038	無題	1970	オフセット、コラージュ
039	仮面	n.d.	油彩／木
040	仮面	n.d.	油彩／鉄、木
041	仮面	n.d.	油彩、色鉛筆／金属、木
042	赤い仮面	2002	油彩／鉄
043	仮面	2003	油彩、色鉛筆／木
044	無題	n.d.	コラージュ、色鉛筆
045	青い人	2000	油彩／木
047	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
048	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント

2025.4.5(土)－6.22(日)

 あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM

◎主催：あべのハルカス美術館、産経新聞社、関西テレビ放送、フォロン財団(ベルギー)
◎後援：ベルギー王国大使館
◎特別協力：ベルギー王国フランス語共同体政府 国際交流振興庁(WBI)

○出品リストの作品No.は、図録および会場内のキャプション掲載No.と一致します。
○会場構成の都合により、本リストの掲載順と展示順は必ずしも一致しません。
○本リストに記載されていないNo.の作品は、大阪会場では展示されません。
○本リストの記載内容は、フォロン財団から提供された情報に基づきます。
○制作年の「n.d.」は「不詳」、「ca.」は「頃」を意味します。
○材質に記載のないものはすべて紙です。○作品はすべてフォロン財団の所蔵です。

左：〈無題〉(部分) 右：〈無題〉(部分) 裏面〈無題〉1966年頃
すべてフォロン財団蔵 ©Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2024-2025

FOLON

No.	作品名	制作年	技法／材質
050	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
052	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
054	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
057	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
058	16番目の考え	1996	ブロンズ
059	20番目の考え	1998	ブロンズ
060	49番目の考え	1998	ブロンズ
061	29番目の考え	1997	ブロンズ
062	11番目の考え	1997	ブロンズ
063	25番目の考え	1997	ブロンズ
064	3番目の考え	1996	ブロンズ
065	51番目の考え	1996	ブロンズ
066	46番目の考え	1999	ブロンズ
067	45番目の考え	1999	ブロンズ
068	13番目の考え	1996	ブロンズ
069	63番目の考え	1999	ブロンズ
070	24番目の考え	1997	ブロンズ
071	41番目の考え	1997	ブロンズ
072	人	1992	ブロンズ
073	森	n.d.	カラーインク
075	無題	n.d.	墨
076	無題	n.d.	墨
077	無題	n.d.	墨
080	無題	n.d.	墨、コラージュ
082	無題	n.d.	カラーインク
083	いつもとちがう(雑誌『ザ・ニューヨーカー』表紙 原画)	1976	水彩
084	歩く男	1978	水彩
085	見えない存在	1990	水彩、コラージュ、色鉛筆
086	無題	1974	シルクスクリーン
第1章 あっち・こっち・どっち？			
087	無題	ca.1968	コラージュ、墨、カラーインク
088	あらゆる方へ	2004	ブロンズ
089	無題	1968	シルクスクリーン

No.	作品名	制作年	技法／材質
090	無題	ca.1968	墨、カラーインク
091	街の明かり	1975	シルクスクリーン
092	無題	n.d.	墨、カラーインク
093	都市の標識	n.d.	墨、カラーインク
094	無題	n.d.	墨、カラーインク
095	ニューヨーカー	ca.1970	墨
097	あらゆる方へ	1970	シルクスクリーン/ アルミニウム
098	都市のジャングル	n.d.	シルクスクリーン/ アルミニウム
099	日刊紙	1978	シルクスクリーン/新聞紙
100	無題	1967	墨
101	都市のジャングル	1970	墨
103	悲鳴	1972	水彩、鉛筆
104	ボリー・マグーお前は誰だ	1966	コラージュ、墨、 カラーインク、水彩
105	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
107	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
110	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
111	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
113	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
116	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
117	ギィ・フォワシィ作 「壁の崩れるのを眺めて」 舞台美術のためのデザイン	1966	墨、水彩
118	無題	n.d.	グラフィイト、水彩
119	無題	ca.1965	グラフィイト、水彩
120	無題	1981	カラーインク
121	モダン・タイム	1992	ブロンズ
122	記念碑	1993	ブロンズ
123	装飾プロジェクト	1988	グラフィイト、 カラーインク、水彩、 色鉛筆
124	群衆	1973	水彩
125	歩く街	2000	ブロンズ
126	無題	n.d.	グラフィイト、水彩
127	黒い星	n.d.	水彩
128	無題	n.d.	墨、カラーインク
130	無題	n.d.	墨
131	無題	1998	金属
132	無題	n.d.	墨
134	白い扉	n.d.	シルクスクリーン
135	調査	1970	シルクスクリーン／ アルミニウム
136	反射	1972	シルクスクリーン／ アルミニウム

第2章		なにが聴こえる？	
137	エコロジーの今日	1981	水彩、色鉛筆
138	たくさんの森が	1979	水彩

No.	作品名	制作年	技法／材質
139	無題	n.d.	墨
140	無題	n.d.	墨
143	煙	1971	水彩
144	無題	1971	カラーインク
145	回答なし	1971	墨、カラーインク、水彩
146	隠された次元	1971	カラーインク
147	無題	n.d.	カラーインク
148	無題(罪人つみびと)	n.d.	カラーインク
149	波	1990	カラーインク、コラージュ
150	深い深い問題	1987	水彩
151	S.S.のために	n.d.	墨、カラーインク
153	無題	n.d.	墨、カラーマーカー
155	無題	n.d.	墨
156	無題	n.d.	水彩
157	無題	n.d.	水彩
158	バビロンの終わり(ギョーム・ア ポリネール『散文集』のための 挿画) 158:(1), 159:(2)	1984	水彩
159			
160	ごちそう	1983	水彩
161	もっと、もっと	1983	墨、カラーインク、水彩、 色鉛筆、コラージュ
162	難問	n.d.	水彩
163	ニクソンの勝利	ca.1968	カラーインク
164	無題	n.d.	墨、カラーインク
165	死の舞踏 (雑誌『アトランティック』 [1984年1月]表紙 原画)	1983	カラーインク、水彩、 コラージュ
166	網渡り師	1973	シルクスクリーン
167	無題	n.d.	墨、カラーマーカー
168	無題	n.d.	墨、カラーマーカー
169	発明	1982	シルクスクリーン
173	無題	n.d.	墨
174	無題	n.d.	墨
175	無題	n.d.	墨
176	無題	n.d.	墨
180	無題	n.d.	墨
182	無題	n.d.	墨、水彩
183	未知の世界に耳を澄ます	n.d.	墨
185	遠い国からあなたへ手紙をした ためています	1972	シルクスクリーン
186	空の穴	1971	シルクスクリーン／ アルミニウム
187	無題	n.d.	墨
188	無題	n.d.	墨
190	無題	n.d.	シルクスクリーン

第3章		なにを話そう？	
192	『ライフ・インターナショナル』	ca. 1966	墨、コラージュ
193	無題	1966	複製

No.	作品名	制作年	技法／材質
196	無題	ca.1967	墨
197	無題	ca. 1966	墨
200	Lettera 32 すべての人にオリ ベッティを	1967 (2024 復刻)	オフセット
201	無題	ca.1983	水彩、色鉛筆
202	無題	ca.1983	水彩、色鉛筆
203	Mac Man	ca.1983	水彩、色鉛筆
204	無題	ca.1970	カラーインク
205	無題	n.d.	カラーインク
206	死刑反対	1978	オフセット
207	ラルース (書籍のためのポスター)	1972	オフセット
208	フォロン展 フィレンツェ	2005	オフセット
209	国際音楽祭 ヴァンス 75	1975	オフセット
210	リリー、愛しておくれ (映画のためのポスター)	1975	オフセット
211	フォロン展 フルーヴ書店ギャ ラリー、ボルドー	1972	オフセット
212	ユーロデザイン 1969 ナンシー	1969	オフセット
213	フォロン展 コッレール美術館、 ヴェネツィア	1985	オフセット
214	欧州は人種差別に反対する	n.d.	オフセット
215	輸血・移植免疫センター	1991	オフセット
216	スポーツが救う	1996	オフセット
217	ポスター美術館 パリ (カッサンドルへのオマージュ)	1978	オフセット
218	グリーンピース 深い深い問題	1988	オフセット
219	エコロジーの今日	1981	オフセット
220	アムネスティ・ インターナショナル	1986	オフセット
221	国際建築研究センター 30年に わたる文化的取り組み	1988	オフセット
222	HIROSHIMA 太田川の七つの 流れ(演劇のためのポスター)	1995	オフセット
223	ブルー・シャドー	1980	オフセット
224	ブルー・シャドー	1984	オフセット
225	『世界人権宣言』表紙 原画	1988	水彩
226	『世界人権宣言』序文のための 挿絵原画	1988	水彩、コラージュ
227- 252	『世界人権宣言』のための挿絵 原画		
227:第1条	228:第2条		
229:第3条	230:第4条		
239:第5条	240:第9条		
241:第12条	242:第14条	1988	水彩
243:第15条	244:第18条		
245:第19条	246:第20条		
247:第21条	248:第23条		
249:第26条	250:第27条		
251:第28条	252:第30条		
233- 235, 238	『世界人権宣言』のための スケッチ	ca.1988	(233: ボールペン、 234: 鉛筆、235: 色鉛筆、 238: 鉛筆、カラーインク)

No.	作品名	制作年	技法／材質
エピローグ つぎはどこへ行こう？			
253	窓	1974	水彩、木
254	月世界旅行	1981	水彩
255	無題	1973	水彩、色鉛筆
256	映画[裸の愛]ポスターのため の原画	1981	水彩
257	自画像	1974	水彩
258	見知らぬ人	1991	水彩
259	白い帆 2	1982	水彩
260	無題	n.d.	顔料インクジェット
262	無題	n.d.	ゼラチン・シルバー・プリント
263	無題	n.d.	顔料インクジェット
264	無題	n.d.	顔料インクジェット
268	出帆	1991	水彩、コラージュ
269	モランディの国で	1996	水彩
270	夜明け	1996	水彩、コラージュ
271	青い旅	2000	油彩、コラージュ／木
272	旅	1995	油彩、コラージュ／木
273	旅	1990	油彩、コラージュ／木
274	出帆	2001	ブロンズ
275- 285	275:[宛名:ジョルジョ・ソア ヴィ／消印:パレスサイド・ビル ディング東京]	1975	
	276:[宛名:パオラ・ギリンゲッ リ／消印:セーヌ＝エ＝マルヌ (フランス)]	1975	
	277:[宛名:パオラ・ギリンゲッリ／ 消印:ニューヨーク(アメリカ)]	1970	
	278:[宛名:パオラ・ギリンゲッリ／ 消印:コンクルミエ(フランス)]	1972	
	279:[宛名:パオラ・ギリンゲッ リ／消印:不明(切手:フランス)]	n.d.	
	280:[宛名:無し／消印:無し (切手:フランス)]	n.d.	(275-282:水彩、 ミクストメディア、 283-285:複製)
	281:[宛名:フォロン／消印:不 明(切手:エジプト)]	n.d.	
	282:[宛名:フォロン／消印: ナッソー(バハマ)]	1988	
	283:[宛名:ジョルジョ・ソア ヴィ／消印:箱根宮ノ下(神奈 川)]	1970	
	284:[宛名:ジョルジョ・ソア ヴィ／消印:東京]	1970	
	285:[宛名:ジョルジョ・ソア ヴィ／消印:パレスサイド・ビル ディング東京]	1975	
286	ハートの木	2001	水彩
287	大天使	2003	水彩
288	飛翔	1985	水彩
289	風景	1975	水彩
290	白い花	1998	グラフィイト、水彩、色鉛筆
291	今日	1978	水彩
292	道	1984	水彩